

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

神戸大学

前期日程

科目	国語(現代文)
----	---------

海洋政策	出題数	現代文 1題			
経営		現代文	1題	古文	1題
他		現代文	1題	古文	1題
				漢文	1題

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総論>

昨年度と同様、評論からの出題であった。文章量は5000字程度で、昨年度の4700字程度より300字程度増加している。例年通りの分量の範囲といえる。昨年、一昨年は哲学者の文章からの出題であったが、今年度は文化人類学者による文章であり、比較的読み取りやすい内容であった。設問タイプは、例年通り、漢字の書き取りと記述説明問題4題(80字×3、160字×1)である。記述問題については、昨年度同様、今年度もすべて内容説明問題であった。

<合格への学習対策>

神戸大学の現代文は難度がやや高く、かつ、やや長い評論を用いた記述問題という、本格的な出題が定番である。5000字程度の長文を通読し、論理展開を意識したうえで、設問の要求に対応した解答要素を的確に見つけ出して簡潔にまとめる練習が大切である。前後の文脈を確認し、対応関係をとらえる練習をしておこう。問四のような、合否を左右する本文全体の論旨を踏まえた記述説明対策として、評論の要旨を100字〜200字程度でまとめる練習を積んでおくといよい。漢字問題は標準的なものが多いが、同音異義語については本文の文脈を確認し、慎重に選んでいこう。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
一	評論	松嶋健「交換の論理と「能力」」	能力主義の問題点について考察した文章である。「能力」が交換可能なものと観念されて市場における等価交換の論理と結びつき、社会的配分の論理として用いられていることを問題視している。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
一	問一	記述	傍線部の内容を説明する問題。 「できる」と「能力」の違いについて、「エネルギー」と「デュナミス」に着目して、1〜3段落の要旨を中心にまとめる。	標準
	問二	記述	傍線部の内容を説明する問題。 傍線部「「能力」にまつわるこうした言説」については、5段落を中心にまとめる。傍線部「現実の不平等を正当化する」については、7段落を中心にまとめる。	標準
	問三	記述	傍線部の内容を説明する問題。 傍線部「経済的かつ道徳的な均衡感覚」について、10段落「正義の感覚」を中心にまとめる。	やや難
	問四	記述	本文全体の論旨をふまえたうえで、傍線部の内容を説明する問題。 傍線部自体については、直後の一文を踏まえ、問二との対応を考えつつ、5〜7段落を整理する。本文全体の論旨に関しては、11・12段落の「諸原理」を中心にまとめる。	標準
	問五	記述	漢字の書き取り。「系譜」「劣」「保証」「完遂」「貨幣」の5問で、すべて常用漢字からの出題であった。	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階(難・やや難・標準・やや易・易)で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

神戸大学

前期日程

科目

国語(古文)

総括

経営学部	出題数	現代文 1 題, 古文 1 題			
経営学部以外	出題数	現代文 1 題, 古文 1 題, 漢文 1 題			
		難易度(昨年比)	易化	昨年並	易化
		分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

問題文の文字数は、昨年度と同程度で、950 字程度であった。

〈合格への学習対策〉

解釈力をつけるのは言うまでもないが、普段から現代語訳や説明の記述答案の作成対策をしておくこと。説明問題では、思いついたまま漠然と書くのではなく、解答の該当箇所を本文中から見つけ、語句・文法に忠実に訳し、その解釈に根ざして説明する方法を見つけることが大切である。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
二	説話	からものがたり 『唐物語』(しげのり 藤原成範?)	ほつしんしゅう 2023『発心集』以来の説話からの出題。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
二	問一	記述	現代語訳 ①「ありなんものを」を文法的に正しく訳出する。 ②「有様」の内容を補う。 ③ 人物関係を補う。 ④ 人物関係を補う。	標準 標準 標準 標準
	問二	記述	内容説明(50字以内) 傍線部(A)の直前を使う。 五十字でまとめるのは難しい。	標準
	問三	記述	内容説明(60字以内) 「あはれにいみじくおぼされけるにや」に着目する。	標準
	問四	記述	文法 助動詞「ぬ」を適切な活用形に直す。	易
	問五	記述	文学史 『雨月物語』は江戸時代の成立。	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

2026年度 入試問題分析シート

神戸大学

前期日程

科目	国語(漢文)
----	--------

総括

出題数	現代文1題, 古文1題, 漢文1題		
難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

総論

昨年度は『隋書』から出題され、総字数は132字・設問数5問であった。本年度は『分甘余話』から出題され、総字数は124字・設問数5問であった。問題文の分量は昨年度よりやや減少した。本年度も、白文の書き下しが問われた。

特記事項・トピックス

本年度は、字数制限付きの問題が2問出題された。

合格への学習対策

- ・頻出句形を十分にマスターしておくだけでなく、漢文の構文にも十分に慣れておく必要がある。
- ・高度な読解力が必要なので、日頃から難しめの文章にも親しんで、文章全体の構成を捉える力を養う必要がある。
- ・答案をまとめるために高度な表現力が要求されるので、日頃から日本語の表現能力を養っておく必要がある。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
三	随筆	『分甘余話』(王士禎)	出題頻度は稀。	やや易

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
三	問一	記述	語の読み(全てひらがなで、現代仮名遣いでよい)。3問。	易
	問二	記述	書き下し(全てひらがなで、現代仮名遣いでよい)。白文。	易
	問三	記述 記述	(一) 現代語訳。返り点・送り仮名付き。 (二) 理由説明。20字以内。	やや易 標準
	問四	記述	理由説明(簡潔に)。	標準
	問五	記述	内容説明。50字以内。	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。